

開講計画 全5回／各90分

回	日付	曜日	10:50~12:20
1	9/29	火	発達障害から神経発達症群へ 知的発達症群、コミュニケーション症群
2	10/13	火	自閉スペクトラム症(ASD)と 注意欠如多動症(ADHD)
3	10/27	火	限局性学習症(SLD) 発達性協調運動症
4	11/10	火	紛らわしいもの、併存症、二次障害
5	11/24	火	2Eとギフテッド

受講料 8,500円

定員 20名

神経発達症群・ギフテッド等の多様な個性

発達障害という用語は、法律行政の用語としては残っていますが、アメリカ精神医学会の診断基準の改正(2013年・2022年)やWHO(2018年)の国際疾病分類の改正により、神経発達症群という用語に改正されました。包括名称だけでなく、個別の疾患の名称・概念が変わりました。感覚過敏(HSP)やギフテッドなど、神経発達症群と紛らわしいものが知られています。また、学校適応・社会的適応の問題等、ギフテッド(異才)という特定の領域で、並外れた能力あるいは才能の可能性を示すことも・人の理解も、しばしば神経発達症群と間違えられたり、2Eという障疾患と才能が重複することも・人があり、多様な個性の理解と受容という視点での社会的認識が重要です。こうした分野では、さまざまな研究や医療・特別支援教育等の実践の集積により、方法や捉え方が変わってきています。こうした分野での最新の知見の提供から、多様性の理解と許容という課題を考えてみましょう。

講師

本学名誉教授
みやかわじゅうじ
宮川 充司

発達臨床・学校臨床の研究者

受講上の注意、受講日に持参するもの等

筆記用具。資料等は当日配付いたしますので、特に必要ありません。